

# 「鉄砲伝来と日本人」

伝来 480 年記念

令和 5 年 9 月 30 日

須川 薫雄（しげお）

## 1, 大航海時代と戦国時代 二つの歴史が交差

大航海時代の地球探索は、現在の宇宙開発熱に似ていた。

欧州の大航海時代は 15 世紀半ばからポルトガル、スペインが中心となり 17 世紀半ばまで 200 年間続いた未知の世界への冒険的開発時代のことである。

背景はルネッサンス後、文化、文明、宗教が新たな局面を迎えた。農業生産力、情報力、工業力、航海力が発達した。彼らの世界進出の道具は帆船と火砲だった。1500 年前後に、バスコダガマ(アジアに到達)、コロンブス(アメリカ大陸発見)、マゼラン(世界一周)があった。交易と布教が合体して、彼らは地域の勢力を利用した。「地球」というものの姿がおぼろげながら分かってきた。

一方、日本は応仁の乱、1467 年から 1570 年、安土桃山頃までが戦国時代で、天文 12 年 1543 の鉄砲伝来が戦国の世を終わらせた。

鉄砲を積極的に活用した信長、秀吉等により全国に広まっていた戦いが収束した。ここまでの時代、日本は朝鮮半島、中国大陸、せいぜい印度までが知る限りの世界であった。

この二つの地域、欧州と日本は別な歴史を歩み、鉄砲伝来まで直接的接触は皆無だった。

2, これら二つの時代的背景と要素が 480 年前、欧州から日本への鉄砲伝来を招いた。

鉄砲は欧州から日本に直接もたらされた最初の文明であった。

鉄砲は火薬の力で弾を撃ち出し、相手を倒す武器。ネジやバネ、火薬、鉛玉などそれまで日本にはまったく無かった技術が一度に入った画期的な事実である。

(ある時期、日本の学説では鉄砲は中国を経由して日本に伝来したという説が主流であった。しかし客感的史実はアジア欧州交易にイスラム、中国の関わりが存在したが、鉄砲などの文明、技術に関しては、ポルトガル商人がゴアで製造、マラッカ、マカオを基地として日本にもたらした。彼等は移動手段として中国船を

利用した。なおゴアの火器製造目標は 1 万挺で、その製造はバルカン半島人によったそうだ。一方、日本側には何らかの情報が事前にきていた可能性がある。

欧州の世界進出へのすざましいパワーと計画を理解すべきである。

火砲は商品だった。日本からの対価に金（ゴールド）を求めた。

鉄砲伝来は純粋な交易であった。16 世紀の、

ゴア、マラッカ、マカオ、の地点と地域勢力、印度、イスラム、中国の存在と関係などから地政学的な事実を認識すべきだ。



南蛮船図

日本の戦国時代の観点からみると、火器、鉄砲は従来の戦闘を根本的に変えた。鉄砲は身分、体力に関係なく、誰しものが短い期間で習得できる戦闘方法で、戦闘は個人戦から集団戦になった。鉄砲は工業力、補給力など資金力があり、活用可能な側に有利であった。そのため群雄割拠の時代は終わりを告げた。ある意味、鉄砲、その武器の持つ特色は従来の身分制度を破壊したと言える。

### 3、 安土桃山時代に日本人対応力が南蛮文化文明を定着化させ、さらに徳川時代に日本かして継続した。



ザビエル像

南蛮の文化、文明はキリスト教伝導と一体だった。南蛮文明と日本文明の接触は世界の一体化を目指したポルトガル、スペインの目標に合致しており、その力は爆発的に伝わり、日本に大きな影響を与えた。それらは江戸期の鎖国を経過して明治の文明開化に繋がったのでは

ないか。南蛮、異風は日本が中国・印度から得られなかった世界観を醸成し、多くのことに影響を与えた。

例、芋類、トウモロコシ、レンズ、印刷。印刷の原理は江戸期の版画に。ガラス工芸品伝来も彼らが天文 18 年に信長にグラスを送ったことだが、日本の工芸品は長崎で 17 世紀後半「びいどる」「ギアマン」と呼ばれ大阪、江戸、薩摩などに広まった。現在、日本人があまり意識していないが、食べものに多くの南蛮文化が影響を与えた。昨今、日本料理が欧米人に受けている背景。



### 堺の町と商人

日本の南蛮文明吸収の早さは技術だけでなく商取引など経済的水準が高かった事があげられる。(宣教師の報告、例、言葉の数と堺商人の活動など。) 日本の商業力が欧州大航海時代の水準にあったことは円滑な鉄砲技術のポルトガル商人から日本の戦闘集団へ移転させた。

残念ながらこの期間、日本人が世界に出た期間は短かった。約半世紀。日本の支配者は南蛮文化を受け入れたがキリスト教を拒否した。

現在でも日本のキリスト教は信者 1%と圧倒的マイナーな存在である。(東京のみなら 6%)

しかしながら、大友藩の天正 10 年 1582, 遣欧少年使節団 4 人がローマ訪問した。

これに続きは仙台伊達藩、支倉 常長 遣欧使 新大陸経由のローマ行きに繋がった。180 名、慶長年間、各 7-8 年間の旅。



支倉 常長

徳川幕府の鎖国まで、堺をはじめ日本の商人はアジアで活発に交易し、今度は日本製の刀剣、火縄銃が商品になった。

御朱印船の時代、日本にも国家的交易立国の機会があった。

16世紀後半から17世紀初頭まで、約50年間、日本は交易国だった。タイ、マレー、ベトナム、フィリピン、インドネシアなど各地には日本商人が進出した日本人街が存在していた。

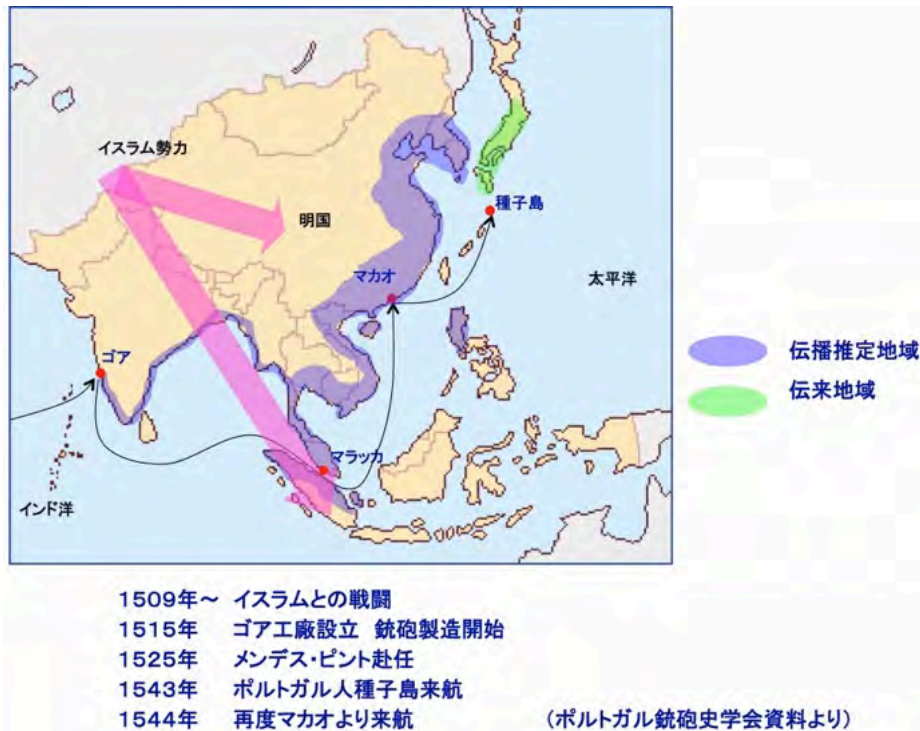
#### 4、アジアの他地区への欧州からの鉄砲伝来はあったか？

火縄銃が日本へのように中国大陸、朝鮮半島にもたらされ製造、活用されたかは不明である。皆無ではなかつただろうが、現象的な規模ではなかつたと推定する。

その理由はその時代の各地域には鉄砲の需要がなかつたこと、技術水準、商業環境などその他の条件も揃っていなかつたことが挙げられる。

実証できる現物がほとんど実在しないのだ。

アジア各国博物館の所蔵品をトヨタ自動車社の協力で調べたが火縄銃といえば日本製の武器であった。



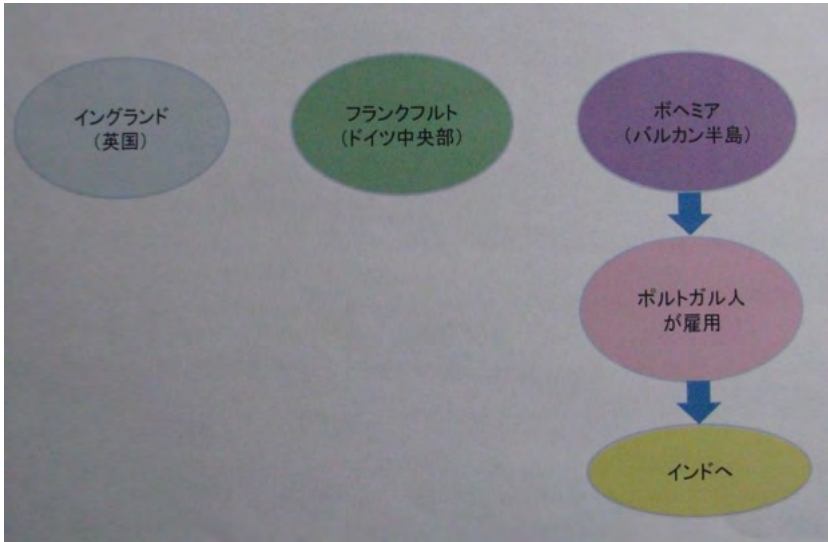
「伝播」と「伝来」は違う。鉄砲を自ら多量に生産し、武器兵器として実用化したのはこの時代、日本だけであった。

## 5、日本に伝来した火縄銃の種類

欧州の研究者によれば、15-6世紀、火縄銃の系列には3種あり、それらはイングランド系、フランクフルト系、ボヘミアン系であった。ポルトガルの研究者、ラインハルト博士は、ポルトガル商人がバルカン半島の職人に製造させ、そのスタイルはボヘミアンであったとしていた。種子島に存在する伝来銃はボヘミアンである。薩摩の鉄砲がこれらに近い形状。



しかし種子島の鍛冶が製作したものはフランクフルター（台が角張っており引き金が前方にある）形だ。



確かではないが、イングランド系形状は平戸、紀州に、フランクフルターは國友の一部の筒に似ている、伝来後に影響があったかも。

## 6, 江戸期の火縄銃

(ア) 欧州の火縄銃との差は、

形状が異なる。日本に最初に伝来したのはそのうちの一種、ボヘミアン系船舶用の形であろう。

扱いと、命中率は日本の火縄銃が優れている。

欧州のものは大型。銃長が長く、銃床が大きい、からくりが



簡単、サーペンタイン、アキバースなど。  
スを持つマスケットア、甲冑に注意。

アキバー

17世紀半ばから日本で火器使用頻度は、極端に減少した。

機能は発達せず。火打ち式すら採用されなかった。しかし、ソフト面、  
砲術流派、演武などが発達した。流派は欧米では聞いたことはない。

演武は欧米でも盛んである。(独立戦争、南北戦争の例)



稲富流

江戸期、200 年間に日本の火縄銃は火器の性能を超えた存在になった。つまり実用的なものより文化遺産、工芸品的な武器になった。日本刀、弓矢、甲冑鎧も同じ。

## イ、江戸期は民間銃砲所持規制の原点

高札と鑑札



## ロ、「脅し筒」の存在

発射不能な前装銃は存在しないのでは。火薬を銃口から込めれば弾丸も込められる。「脅し筒」は単なる、制度上の存在であったのでは。

(この説には反論が多いがしかし現物は存在しない)

漁師・農民用の銃は、武家の払い下げか？

いわゆる、野筒・百姓筒は口径中程度、5匁くらいだが、銃身が短い、80cm くらいのもが多いと言われている。

享保の改革頃に払い下げられ、その後野鍛冶が製作したと言われているが、現物は少ない。

#### ハ、身分のよる軍制扱い

会津藩絵巻物にある侍筒隊と鉄砲隊 30 人。

江戸期において鉄砲は再度、身分制度を破壊した。



会津藩黒川演習図 江戸期

火縄銃を武器とするのは足軽クラスに限らず侍士のものともなった。

## 二、日本の火縄銃の性能

銃身 100cm、口径 12mm の一般的火縄銃では、



有効射程距離 50m 大体、城の堀幅

発射時間 早合を使い、戦場方式で 1 発 10 秒 (早撃ち競技)

鉄板の鎧甲冑は簡単に打ち抜く

十匁筒の意味 足軽でない

## ホ、三段撃ち戦法への疑問

火縄銃射撃は隣の射手との間を開ける必要がある。生火と火皿が点火機能なので、暴発の危険性が高い。

射手一線での装填、発射はさらに危険。射撃面の横幅が必要。

文禄慶長の役、天正 20 年 1592 から慶長 2 年 1598 までの記録（洞 富雄先生）によれば浅野家の某一人が一日、200 発発射とあるが、装填手と射手を分けていたのではないか？

一説では銃 3 挺（4 という説もある）に一人の射手。名人。



長篠の戦い絵図 射手が侍装具

## へ、鉄砲本体への装飾

江戸期のものは少ない、明治初期の浜もの時代にしきりに装飾されたという説もある。しかしながら家紋、その他流派や装飾の象眼は一般的であった。なお、布目象眼のものは江戸期にはなかった。

## ト、芸術品的装具の充実

火薬入れ、口薬入れ、早合、胴乱、陣笠、具足、火消し装具など  
新宿百人町の例 伊達家のものが原型、宇和島から出たもので皮革製。木製の型が存在する。欧米の装具は単一。

## チ、左利き用火縄銃は存在したか？

欧米、日本、軍用銃と一般に販売されている銃は左右対称のもの以外、右利き用である。軍における左利きの兵には小銃以外の火器に出番がある。写真の裏焼きで左用銃と誤認されることがある。欧州、日本でも高貴な方の注文銃では存在する。目の方が重要な要素。学問的な話題ではないが、数多く存在する火縄銃のなかでも射撃できる銃は20-30にひとつ、演武出来る銃も10-20にひとつ。

射撃は安全、かつ命中できる銃。

演武は安全に空砲が発射できる銃。

部分を組み合わせた銃は直ぐ飽きる。

合わない部品は危険。

模造品もある。四国登録は注意

日本の火縄銃のライフル銃とセットトリッガーは存在しない

## り、江戸期火縄銃の生産

江戸期、戦闘が無くなり火縄銃生産は激減したか？

しなかったようだ。火器は消耗品、一定期間が過ぎるとスクラップアンドビルドしたのではないか。幕府の武家諸法度によれば武家が保持する武器の数量、その寸法、身に付け方、使用法などは厳しく規定されていた。それで200年後の異国船問題であきらかになった。

火縄銃は戦国時の堺、國友生産より地域に移転した。おそらく東北地方の鍛冶は江戸期初期に移転したのではないか。

現存する日本の火縄銃は19世紀初頭、刀の新刀期、のものか外国の古式銃に比べると、程度がよく、数量も多い。



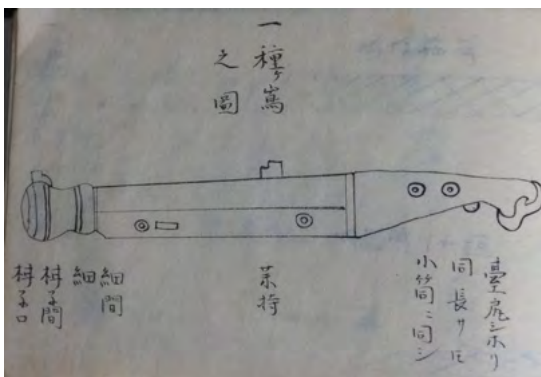


火縄銃に見られる日本の物作りはたいした道具も使わず簡単に、しかし丁寧に製造したことだ。これは現在にも続く日本人の特質。

#### ヌ、尾栓を開ける文化

競技で観察したが、外国の射手は古式銃の尾栓を開け閉めしない。不発、もしくは装薬の入れ忘れはどうするか、火穴から火薬を入れる。清掃には銃口からのみ。日本の火縄銃は尾栓を開け閉めするのが特色だ。火穴が小さい。尾栓が長く、緩いネジ山が特徴だ。

#### ル、流派と大筒



江戸期、砲術は武道になり、的場と言われる練習場があり、他の武道と同じく、師範が教授した。

オ、江戸期、女性は火縄銃を射撃したか？

文禄・慶長の役のころ、立花藩に女性だけの鉄砲隊があったそうだが。

ハ、忍者と鉄砲隊

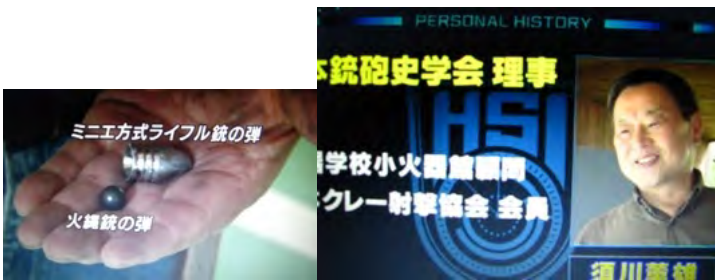
伊賀・甲賀などの忍者が徳川家に抱えられ江戸の百人町、青山町の鉄砲隊になった。調練場が明治、大久保、代々木の演習場に。

6, かくして日本の火器は 19 世紀半ば、欧州に決定的な差をつけられる。小銃では、欧米のミニエ方式銃、エンフィールド、スプリングフィールド銃などに。欧米の火器は産業革命の効果で完全な工業製品になった。部品の互換性が存在した。上、スプリングフィールド銃、下、エンフィールド銃

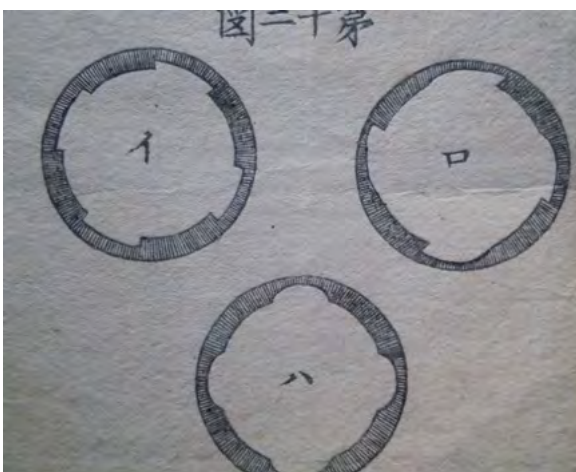




ミニエ種目の射撃 100m



福沢 諭吉先生訳の「手銃論」ライフルの原理など





そして私はミニエ方式銃を研究した。火縄銃が到底敵う相手ではない。ミニエ方式銃はクリミア戦争、米国南北戦争で多量に使用されたが、その一線での存在は約 20 年間で、後装式スナイドル方式銃に改造された。火器の近代化への道筋をつけて、19 世紀後半、欧米の火器は急速に発展、日本は火縄銃を捨て、突然に近代銃に移行した。

クリミア戦争ロシア対英仏トルコ 1853-56 年、21 万+55 万計 76 万人犠牲。米国南北戦争、1861-65 年、北部 23 州対南部 11 州、総計



80 万人犠牲。

日本が決定的に欧米に遅れたのは砲である。野砲、艦載砲  
1868年、明治の文明開化は1904年、日露戦争が集大成。  
小銃、大砲、艦艇、機関銃は欧米産業革命グループ並の近代化が  
出来ていた。

## 7、戦後の火縄銃活動歴史

昭和32年 1976年 安歳 實氏、日本ライフル射撃協会会長、JOC委員の提案で、日本ライフル射撃協会内に全日本前装銃射撃連盟が創立された。当初のメンバーは生田 豊太郎、赤羽 道重、小橋 良夫、吉岡 新一、安田 修、常定 正、澤田 平、そして所 莊吉先生。  
神奈川県立伊勢原ライフル射撃場を火縄銃射撃可能にした。  
銃砲史学会は数年まえより所さんが主催で始まっていた。

日本前装銃射撃連盟は昭和54年1978、7月  
神奈川県立伊勢原ライフル射撃場で第一回全日本種子島選手権が開催した。約40人が参加して盛況であった。各演武団体にも声をかけたので私はこのとき参加した。

## 演武射撃の発展

演武射撃は 1970 年頃から新宿百人町鉄砲隊、名和 弓雄先生提唱が始まり、全国に広まった。

名和氏は日本の火縄銃演武の先覚者で各地に広めた。

忍者の研究で有名で、現在の世界的忍者ブームの下地を作った。

膨大な収集物は明治大学博物館にある。NHK 小河ドラマも

先生が時代考証をしていた作品はしっかりしていた。

全日本前装銃射撃連盟は国際的には MLAIC に加入、欧米以外では日本だけだった。種目に「Tanegashima」Hizadai Tanzuzu, Nagashino4 種目ある。環太平洋大会もその間にある。

私は、

1983 年仏ベルサイユ、1985 年スペインマドリッド、1989 年独ブフォルツハイム、1994 年スイスクール、1996 年英ワーウック、1998 年同、2010 年ポルトガルファベッス、7 回参加した。

世界大会の折りに会議が開催され競技や実施の詳細が決まる。議論は白熱する。



現在 28 カ国日本は出ているのか？

そして日本の火縄銃が好きになった欧米人が大勢存在します。

日本には火縄銃に限らず、不思議に古いものが温存されていることがある。火縄銃もそのひとつ。刀剣、鎧甲冑類とともに欧米で人気が高く、射撃する人たちも多い。

火薬の譲渡、消費許可を得れば、火縄銃射撃が可能な射撃場で発射できる。

筑波万博（国際科学技術博覧会）で十刃筒以上の演武に出た。

関流が紹介された。

新宿百人隊は 1977 年に初参加した 2022 年にも出た。

演武射撃は幅広い可能性を占めている。

## 9、日本の火縄銃の課題

手入れ整備、部品の製作に関するもの

どんな火薬も金属を腐食させる。木製部は乾燥して脆くなる。

安全性の確保

銃の安全の認定は誰が行うのか。

誰がどのように修理補修を行うのか。

どこまで修理補修、部品の再製作は行えるのか。

鉄砲現物を文化遺産として保存する。

発射できる複製品、管撃ち式、火打ち式を合法化する。

あるはずのない違法レプリカを禁止する。

演武射撃はすべて複製品を活用する。



射撃競技は世界大会と同じく、オリジナル原型とレプリカ複製の  
2つに分類する。



競技での銃器検査



コルトレプリカ銃の競技

かくして火縄銃射撃は武道・砲術であるということの認識。

世に広く啓蒙すべき課題のひとつ。

武道である以上、公正などうどうとして行動が求められる。

おわりに)

鉄砲伝来、ひとつの事実を考えると、現在までの日本の世界における立ち位置が明確になる。

日本はこの 480 年間、西欧と同じ水準に存在してきているのだ。

それらの背景は、価値観、日本の政治、経済、社会、産業、それを支えるインフラ、教育、医療などの基盤である。

16 世紀の異風は江戸期には日本文化・文明に取り込まれ、19 世紀半ば明治維新・文明開化に繋がり、産業革命と帝国主義を経験、戦後民主主義、自由経済の体制に移行した。

すべて日本人の適応力がなしたことだ。

歴史上、いくつかの危機、苦難が存在したことも忘れてはならないと考える。時代は変わるが状況は不変。

鉄砲伝来とその後の歴史を考えると、私は現在の日本の安全保障状況に及ぶ。

(以上)

参考資料 HP 日本の武器兵器に記載の通り